

議事録（要旨）

会 議	第2回第2次子ども読書活動推進計画策定委員会
開 催 日 時	令和2年8月27日（木）17:30～19:50
開 催 場 所	中央図書館3階視聴覚ホール
出 席 委 員	委員長 張替恵子 委員 赤羽幸子 委員 岩本恵真 委員 鈴木佳苗 委員 庭井史絵 委員 萩原敦子 委員 三原 忍 委員 若槻義隆 委員 勝又隆二 委員 福島文昭
事 務 局 出 席 者	教育長 竹内道則 図書館長 目澤弘康 統括指導主事 小澤泰斗 中央図書館 前田奈緒子 中央図書館 後藤千春 中央図書館 飯田香代子
配 布 資 料	次第 資料1 第1回武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会議事録（案） 資料2 武蔵野市の子ども読書における課題 資料3 学校図書館の現状と課題 資料4 第2回武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会 検討資料 追加資料 武蔵野市立学校図書館分類別図書数の構成 前回の差替 第二次武蔵野市子ども読書活動推進計画改定委員会委員名簿
議 事	<p>（1） 第1回武蔵野市子ども読書活動推進計画策定委員会議事録の確認 【事務局】（資料1） 修正やご意見等あれば頂戴し、承認の後、ホームページにて公開する。</p> <p>（2） 武蔵野市の子ども読書における課題 【事務局】（資料2の説明）</p> <p><委員との質疑回答></p> <p>【委員】先ほど、保育園や幼稚園への取組について説明があったが、本委員会で検討するのは、それぞれの保育園や幼稚園における読書推進の取組のあり方か、それとも、市立図書館による各園への支援やアプローチか。</p> <p>【事務局】その両方を想定している。市立図書館がそれぞれの園にどのような取組、サポートができるかもテーマである。一方で各園が主体となって、子ども、保護者に対してどのようなアプローチできるのかについても、今回の計画の中で触れていきたい。</p> <p>【委員】保育園や幼稚園では、基本的に保護者がいない場面で保育や教育をしている。そこから家庭にアプローチするとなると、保護者に渡すツールなどが必要かもしれない。</p> <p>【委員長】保育園や各施設を通じて、図書館が作成した、例えば読書の手引きや対象年齢に応じたブックリストなどを、保護者の手に渡るようにするアイデアもある。図書館側が講師となって保護者に読書についてガイダンスをするなども考えられる。</p> <p>【事務局】現在は、子どもの各年齢向けにブックリストを作成して学校に配布しているが、幼稚園、保育園への配布は行っていない。</p> <p>【委員】本日は、提出された5つの課題について方策を議論するのか。</p> <p>【事務局】5つの課題について、皆様にご検討いただければと考えているが、もちろん、現状を見て、これら以外にも課題があれば、ご指摘いただければありがたい。</p> <p>【委員長】「読書という言葉の捉え方・定義」は、課題というより、この計画をたてるうえで、明確にしなければいけないポイントであり、私たちはこのように捉えると明確にしておく必要があると思う。</p>

【委員】書かれている以外の課題となるが、学校図書室が教室から遠い学校が多く、昼休みなどに図書室に行くのをためらう原因となっている。武蔵野市では順次、校舎を建て替える予定なので、図書室の位置を市として考えていくことも大切なことと思う。

また、3館の市立図書館と学校図書館の連携も大きなテーマと思う。例えば千葉県の方では、公立図書館の本を学校で検索して借りられるシステムがあり、こうしたシステムの導入も検討してはどうか。

【委員長】読書環境の整備という大きな括りとして、学校図書館と公立図書館の連携という具体的な柱があってもいいのではないか。

【委員】「読書」という言葉の捉え方について、紙の本、電子書籍、インターネットなどメディア（媒体）で分けるのがよいのかどうか。例えば目的で分けると、「読み物などを読む楽しみのための読書」と「学習用の手段としての読書」、つまり読書自体が目的のものと、読書が手段になるものがある。この「手段としての読書」も含めば、中学生で読書している割合は増加するのではないかと考えられる。

よい読書環境の整備については、本当に適書を紹介しようとするなら、蔵書に良書があり、その中で適書を理解して紹介できる人が必要である。蔵書だけでも人だけでも十分ではない。環境整備にどのくらい労力をかけるのか考えていかなないと適書を提供していくのは難しい。

読書時間の確保は、一斉読書を導入するのかどうか。あるいは導入しているが充分ではないのか、また、そもそも時間の確保の問題なのか。これらの点を確認する必要がある。

「家庭」「保護者」へのアプローチについては、例えばブックスタートを検診など全員が受ける際に実施することで、図書館に来ない人にもアプローチできている。同様に地域の中でほぼ全員が参加するものは何か、その中で図書館が協力できるものはあるのかの検討が必要であろう。

「読める力」については、読書を楽しむためにも必要な力でもある。「読める力を高める」読書活動プログラムと、「動機付け」として行う読書活動プログラムは違うため、その点を現場で共有してしっかりやっていくということだと思う。

【委員】この計画を策定した後に、読書活動を推進できたかどうかという評価のためにはゴールが必要であり、そのためには、この計画における「読書」には何を含むのかを明らかにすることが大切。今のお話にあった、楽しみとしての読書・本を趣味とする人を増やすことだけを目標にするのか。学校図書館の観点で言うと、調べ学習でも本を利用するが、それも読書時間、読書環境の中にも含めるのか。議論の土俵として設定していく必要がある。

【委員】中学生の不読率の高さが課題となっているが、その原因についての研究や分析などはあるのか。

【委員】全国的な調査でも、読まない理由を直接聞くことは比較的多く行われていて、その結果はウェブ上でも公開されている。ただ、本の内容を問わずとにかく1冊でも読んだかどうかの話になっていることも多く、調査結果を見る際には注意が必要である。

この前提を踏まえたうえで全国的な調査結果を見ると、中高生になるにしたがって、学校での一斉読書の実施率は確実に下がるため、それが不読率上昇に影響している可能性はある。ただ、一斉読書でとにかく読ませれば割合が上がるということでは、本当に読んでいるといえるかどうかということがある。

実際に、「自分から（能動的に）読んだか」と聞くと、小学生でも比率がかなり下がる。このように聞き方、測定の方法で変わるので、不読率については、「こ

ここでいう読書とは」という定義をこの場で議論したうえで、検討すべきではないかと思う。

【委員長】不読率とよく言われるが、その場合、一般的には紙の本だけに限定しているのか。

【委員】調査によって異なる。ただ、「学習参考書は除く」等の注意書きがあるものもあり、先ほどの「読書」の「目的」と「手段」の話だと、「手段」を取り入れていない調査が多いようにも思う。

【委員長】本計画を文書としていくにあたっては、私たちは読書をこう捉えるという共通した理解を、ここで決めていくことが必要であろう。

【委員】「手段」としての「読書」も含むということで調査すれば、武蔵野市の中高生の不読率も変わってくるかもしれない。この場合、全国と武蔵野市の結果は違うものとなるが、それは「読書」の定義やの捉え方がちがうためであり、そうした調査結果が出てよいのではないかと思う。

【委員長】本計画では、高校生も対象か。

【事務局】本計画の対象は、18歳までとしている。

【委員長】中学生が強調されているが、その先に高校もあると捉える必要もある。

【委員】0123施設の図書コーナーには蔵書が3,000冊近くあり、保護者から貸出可能かという問い合わせがよくある。0123には各本が1冊ずつなので貸出すと他の子が読めないのが、図書館で同じ本を探してほしいと答えている。しかし、赤ちゃんを連れてゆっくり図書館で絵本を探すのは、なかなか難しいと思う。0123は乳幼児向け施設なので、泣いても騒いでも本を投げても、「大事にしてね」とは言っても、お互い様という環境の中で絵本を見られるが、市立図書館ではそうはいかないだろう。

そのため、例えば、移動図書館みたいな形で、0123に図書館の人が来て本を貸し出し、返却は図書館にできる等の仕組みができればよいと思う。

また、保育園の図書コーナーは、一般にはあまり充実していないと思う。図書コーナーがあっても、実際には担任の先生方が、自前の本を読み聞かせしているのが現状ではないか。

市立図書館のリサイクル本の提供時、保育園の先生方がすごい勢いで貰いに来ているのを見て、絵本には予算が回らないのかなと思った。市をあげてとのことであれば保育園の読書環境整備にももう少し予算を割くのはどうだろうか。

【委員】「読書は好きか」「どのくらい本を読んでいるか」と聞くと、子どもたちは、その場合の「本」として、9類の物語的な本をイメージする。「本はあまり読まない」という子たちも、図書室に行けば自動車や虫など、興味があることに関する本を夢中でみている。しかし、それを「読書」とは思っておらず、「図鑑を見るのが好き」という。

市立図書館から小学校にまとめて貸し出させていただく、移動教室等の調べ学習の本なども「読書」と認識していない気がする。学習センター、情報センターとしての学校図書館活用も大切になっていくなかで、「読書」の捉え方を決めることは重要と思う。

【委員長】「読書」の捉え方について早めに共有したほうがよい。次回に向けて、各委員が「読書とは」の考えを事務局に送付する等の方法もありうる。

【事務局】委員の方からアイデアをたくさんいただけたらありがたい。この場での意見を事務局でまとめて第3回策定委員会で計画のコンセプトをご提案したい。

【委員長】事務局である程度、草案を作成するということがよいか。

【事務局】本日は、その材料をいただければと思う。

【委員】娘が小学校5年生の時、小学校高学年の女の子が好きそうな、ちょっと恋愛が入った小説を多く読んでいたところ、担任の先生に「そんなの、本じゃない」と言われ、その年は本を読まなくなってしまった。その先生の言い方の問題もあると思うが、その年代の適書と、その子の興味関心や嗜好が違う場合は難しい。どこまでが「読書」か線引きは難しいと思うが、そういうものも含めて「読書」と呼んでほしいと思う。

また、子どもが幼稚園の時、週1回1時間、保護者がボランティアで読み聞かせ

をしていた。先生が用意してくれた何十冊の絵本を1時間読み続けたが、置いてある本はあまり増えておらず、同じ本を毎年読んでいた記憶がある。小学校と同じように毎年新しい本が増えていくと楽しいと思った。

高校生になると本を読む機会は減るので、図書カードでポイントをためる…のようなお楽しみがあったらどうだろうか。

【委員長】 幼い子たちが「読んでもらって耳から読書する」というのも、読書体験に違いない。

【委員】 中学生の娘は、小学生のとき非常にたくさん本を読んでしたが、中学1年生でマンガにはまって、本からスライドした。小学校でも例えば手塚治やガンジー等のマンガは置いてあると思う。マンガを混ぜると1か月100冊くらい読む。心配にはなったが、いいマンガの紹介などがあれば、中学生にはとても魅力的かと思う。中学生は、不読率は高まっても、情報はすごく得たい時期であり、また、友達と共有したい気持ちがあると思う。マンガはグローバルに人気があるので、いいもの悪いものの選別する基準があるといい。

【委員長】 マンガはどういう位置づけになるか。

【委員】 マンガについては多くの議論がある。全国学校図書館協会で選書基準が公開されており、また、現場で話を聞く機会も多くあるが、必ずしも皆が肯定的ではないところもあり難しい。ただ、マンガを読むのには高度な技術が必要との話もある。テレビゲームについても、集中する、いろいろなことを同時にするなど、悪いことばかりではなく、それぞれのメディアで特徴がある。同じく、マンガについても非常に優れている面も心配される面もある。何を目的とするかによってメディアの活用の仕方は変わるのではないかと思う。

【委員】 学校図書館員の研修に行くと、分科会のひとつに必ずマンガに関するものがある。中学・高校、特に高校の司書に関しては、マンガを否定する人はほぼいないと言っていいくらいで、マンガをきちんと選書することをすごく勉強している司書の方もとても多い。ただ読書調査においては、マンガは外されるのかもしれない。

【委員長】 朝読書でのマンガの扱いは。

【委員】 歴史マンガ、学習マンガは学級文庫にも置いてある。

【委員】 息子が「中学時代、毎日図書館を使っていた」というので何を読んでいたか聞いたら「マンガ」と答えた。結構みんな学校図書館に行き、マンガを読んでいた。

字を読むことが好きではない子はマンガさえ読まない。

【委員】 マンガのストーリーが追えるのは高度なことでもあると思う。

【委員長】 「読める力」というか、そのまま文学に移行できる…

【委員】 力がある作品もたくさんあると思う。

【委員長】 本計画では、「読書」にマンガも含めることにするかどうか。蔵書という意味でも入っているか。

【委員】 男子校の中学の学校図書館に勤務していたとき、貸出冊数は9類よりも4類5類のほうが多かった。昆虫、スポーツ、戦車、船、電車などの本ばかりだった。

【委員長】 これを「読書」と認めなければ文学系じゃない子はかわいそう。

【委員】 スマホを持ってきてはいけない学校だったので、電車内でも本を読んでいたが、図鑑や戦車なども多かった。

【委員長】 知的興味を掻き立てるものは十分読書と言えると思う。

「読書」を多角的に捉えられてきたと思う。他の課題についての検討はまだ十分でないが、このテーマはまた次回以降に更に深めるということで、次の議題に移る。事務局から説明をお願いしたい。

(3) 武蔵野市立学校図書館の現状と課題

【事務局】 資料3の学校図書館について小澤先生から説明をお願いしたい。

【事務局】 (資料3の説明)

【委員長】 続いて学校図書館について、校長先生お二方に学校の現状をお話しいただ

きたい。まず、井の頭小学校について。

【委員】本校の学校図書館について資料を用意した。小学校の学校図書館としての全体計画のもと、各学年の読書活動にたいする目標を、新しい学習指導要領における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力人間性など」の3つのカテゴリーで定めている。

- ・毎週水曜日に朝読書、毎週火曜日の朝に保護者による読み聞かせを行っている。読み聞かせはPTA主催なので、学校が直接関わるわけではないが、PTA室にあるそれぞれの学級の読み聞かせノートを見ると、保護者の方々がどのような思いでこの本を選んだかなどが、前の人に返事を書く交換ノートのような形で綴られており、見せていただくとゾーンとする。卒業前に子どもたちに「こんなに読んでもらったんだね」と話すと、誰々のお母さんがこんな本を読んできた等、結構覚えていて、子どもたちの心に残っていると感じた。
- ・4月のオリエンテーションで使用する「図書館のしおり」も添付したが、図書館の蔵書にはやはり9類が多い。貸出しについてもやはり9類が多くなっている。「しおり」の一番後ろにある「図書の日当て」は、出来たらチェックするかたちを取り、段階的に科学読み物や辞書等、学習センター、情報センターとしての役割についても意識できるようにしている。
- ・3年生でポプラディアの方に百科事典の使い方をレクチャーしてもらっている。国語辞典、漢字辞典は国語の授業の中で行うが、百科事典とどう違うのか具体的に学ぶ機会としている。読書動機付け指導においても9類だけではなく自然科学や幅広い科学読み物などもあるので、この機会に読書の幅が広がってくればよいと思っている。
- ・本校の図書室はパソコンルームと中扉でつながっていて、パソコンで調べても情報がない場合は、すぐ図書室に行き専門の本を調べることができる。全ての学級に、毎週1時間「図書の時間」があり、調べ学習においても、ちょっと調べてきますと図書室に行くことが日常的にある。
- ・「読書旬間」では、おすすめの本の紹介カード作成のほか、「先生方によるお話し会」に取り組む。数日前にお話会で扱う複数の本を紹介するが、どの先生がどの本を読むかは内緒になっている。子どもたちは興味がある本の教室に行って待っていると、先生が登場する仕組み。この本を紹介したのはあの先生かなと子どもたちが予想したりする。
- ・今後の課題としては、本を読むというと9類に偏りがちで、学習を深める、あるいはフェイクニュースなどがあるなかで確かな情報を得る、知りたい情報にうまくたどり着くなど、学習センター・情報センターとしての機能について、教員も意識して子どもに伝えていく必要性を感じている。「図書の時間」を、サイレントリーディングで「充実したね」と終わるのではなく、せっかく子どもたちの興味関心が広がる時期なので、自分の好きな世界に加えて、本の幅を広げると必要性も感じる。そういった部分について、教員も含めて、研修も必要かと思う。

【委員長】続いて第六中学校よりお願いしたい。

【委員】武蔵野市内のどこの学校も入学後にオリエンテーションがあり、その中で、図書室で図書館サポーターから、1時間かけて図書室の使い方、これから本を読んでいくことの重要性などについて話をしてもらっている。

- ・本日の配布資料の中にあつたが、市内中学生へのアンケート調査結果で「前より本を読まなくなった理由」として最も多いのは「部活動や習い事が忙しくて読書の時間がなくなった」「勉強や塾が忙しい」であった。スマホやゲームなどもあるが、読書をする時間がないということも要因の一つと考えられる。
- ・子どもたちがとにかく時間がないのが本を読まない理由と思ったので、先生方の協力を得て、毎日の朝読書を実行してきた。六中でも今年から開始した。朝の10分から15分の読書活動を始めて、子どもたちが非常に本を読むようになったと感じる。例えば短い休み時間に教室をのぞくと本を読んでいる。給食の準備を待っている時間でも本を読んでいる。本を読む習慣はついてきたと感じる。
- ・成果物をつくるために本を読むのではなく、とにかく読もう、読むことから始めようということが大切と思う。

- ・朝礼やいろいろな場面で、元プロゴルファーの宮里藍さんの話、WBCの監督だった小久保裕紀さんの、本を読ませることで心の筋肉が鍛えられる話なども交えて、とにかく集中して本を読もうと、子どもたちに語りかけている。
 - ・六中では、年2回「図書室総選挙」を行っている。これはビブリオバトルのようなもので、3人が立候補して、感動した本を皆に紹介する。ほぼ全校生徒が図書室に集まり、どの本を読みたくなったのかを選挙する。
 - ・卒業前に中学3年生が市内の保育園、幼稚園に行って読み聞かせを行う。読み聞かせるためには、自分が十分に読み込む必要がある。また、家庭科で、自分でつくった絵本を読み聞かせる取組も行っている。
 - ・学校の蔵書数には限りがあるので、市立図書館、市立小中の学校図書室にある蔵書をインターネットで検索し、自分の学校になくても、読みたい本を週に1回持ってきてもらえる仕組みなどを導入していただけるとありがたい。既にそういった仕組みを持つ自治体もあると聞いている。先ほどのアンケート調査結果を見ても、本を読まなくなった理由として「時間がない」のほか、「本を買うお金がない、お小遣いは別のことに使いたい」がある。学校でいろいろな本を借りられる仕組みがあれば、これらの課題に対応できる。本が好きな子たちはブックオフなどで本を購入している。読みたい意欲はあるので、借りやすい仕組みを作ってもらえればと思う。
 - ・また、他の自治体で、土・日曜日に学校の図書室を開放している事例も見た。小さな子どものいるお母さんが小学校の図書室に土・日曜日に行って、絵本などを借りて、次の土・日曜日に返しに行く。小さいお子さんへの読書環境が整うと、大きくなって本に親しむ習慣ができる。小さい時に本を読ませてあげられる環境を市として作っていくことが大事だと思う。
 - ・図書館サポーターの方は本当によくやったださっている。現在、サポーターの勤務時間は1日5時間だが、もう少し時間を延ばしてもらえたらと思う。例えば、教員におすすめの本を聞きにきてくれて、何々先生がすすめた本として紹介するなど、前向きにいろいろな活動をしてきている。本当にありがたいのでもっと人数を増やすなどしてほしい。
- 【委員長】** 以上の説明をうけて、ご意見やご質問をお受けしたい。
- 【委員】** 図書館サポーターの方の勤務時間を延ばしてほしい理由として、時間を延ばせばこんなことが出来るなど、もし具体例があればうかがいたい。
- 【委員】** 放課後も図書室が開館できるようになればよいと思う。別の中学にいたとき、図書館サポーターにお願いして、曜日を決めて放課後子どもたちが帰る間際の時間まで図書室を開けてもらっていたこともある。
- 【委員】** 図書室は、図書館サポーターがいないと開けられない。授業の「図書の時間」も必ず図書館サポーターがいる必要があるため、全クラスの授業時間だけで、サポーターに定められた勤務時間の多くを占めることになる。したがって、毎日の中休み・昼休みに図書館を全部開けることはできず、開ける曜日を限定する等に対応している。今はコロナ対策もあり、難しい面もある。
- 【委員】** サポーターは「図書の時間」に対応しているので、休み時間の開館だけで勤務時間がいっぱいになってしまう。
- 【委員】** そのとおりで、中休み昼休み全部やりくりすると足りなくなっている。
- 【委員】** 新型コロナで学校が休業になっていた時にお願いしたところ、子どもたちが学習課題を取りに来る時に図書室もあけて本を借りる等に、快く対応してくれた。中学3年の男子が絵本を借りていくので聞くと、小学校に入る前の妹のために借りていると。本を借りたり買ったりができない時期だったので、自分が図書室に借りに来たと言っていた。
- 【委員】** 蔵書点検にも時間がかかるので、年間850時間では足りない。蔵書点検の時間数を確保するために、勤務時間があと何時間残っているか確認しながらやっているのが現状だ。
- 【委員長】** 基本的に各学校1名か。
- 【委員】** 1名である。本校では蔵書点検のときには、もう一人手伝ってくださる方を確保している。
- 【委員長】** 97年に学校図書館法が改正されて学校司書の配置に変化があったが、武蔵

野市はその時期にサポーター制度を取るようになったということか。

【委員】詳細は資料にあるが、平成17年の週3日・1日3時間から始まって、平成20年度から1日5時間になった。5時間になる前は、蔵書点検はあまりできてなかったとも聞いている。

【委員】蔵書点検は大変。なるべく閉館したくないので、春休みなどに実施している。

【委員】中学校は放課後に図書館を開館していないのか。

【委員】開いてない学校が多い。生徒だけしかいない状態で図書室を開けることはできないが、教員は放課後は部活動の指導がある。図書室サポーターの規定の勤務時間数では放課後にまで図書館を開けることはできない。

【委員】学校図書館を地域の人に開放する日はあるのか。例えば、在校生の親が子どもと同じように図書館を利用できる制度はあるか。

【委員】それはない。もし、保護者の方で、貸出業務などお手伝いして下さるのであれば、学校としては非常にありがたい。

【委員】登録などが必要となるが。

【委員】親が学校から借りてきた本が家にあれば、子どもとのコミュニケーションのきっかけになるのではと思う。自分は、子どもの学校の図書館の場所も分からなかったが、そういったシステムがあれば、自分の子どもが通っている間だけでも、近くで本を借りる機会になると思った。

【委員】中学生の子どもがいるが、生徒にとって、図書室はすごく神聖な場所らしい。中学の改築にあたって子どもたちにアンケートをとり、「学校の中でどこが一番好きか」と聞いたら「図書室」と。居場所が欲しい子も図書室にいったりするので、そこに保護者等が出入りすると、また違うところになってしまうかもしれない。

【委員長】図書室を地域開放している他の自治体でも、土曜日など、時間を区切っていたように思う。使い分けしているところはあるかもしれない。

【委員】図書館サポーターの勤務時間を増やせたら、先生方とコミュニケーションをとる時間が増えることが一番大きいと思う。読書にしても調べ学習にしても、授業やカリキュラム、課外活動含め修学旅行や学校行事などと、図書館がいかに関わっていくかが大切だと思う。勤務時間が短いと情報が入ってこないの、急に「明日の授業で使う」とか、ひどいと「今日使います」など、十分な準備ができない話をよく聞く。また、先ほど、公共図書館との連携があまりできていないとの指摘があったが、それにも時間が必要。公共図書館との窓口となるには、いわゆるサービス以外のバックヤードで動ける時間を担保しないと、退勤してから自分の時間で公共図書館に行って本を探して下さったり等の負担につながると思う。

【委員】その通りである。勤務時間外に教員とコミュニケーションを図ったり、図書の時間にオーダーしたり、その後でわざわざ残って下さって、教員のニーズを聞いて下さったりしている。

【委員】中学では、月に1回の新刊本紹介で、本の名前だけではなく、読みどころ等も含めて紹介して下さる。学校にいる以外の時間にやってくれていると感じる。

【委員】児童が3年生ぐらいになると、授業などで中央図書館に連れて行きたいと思うが、歩いて行くには遠く、なかなか時間が取れないのが悩ましいところだ。図書館の方にきていただく出前授業というのはできるのか。

【事務局】最近ほとんどないが、何回かやったことはある。ただ、学校の方も忙しく、一方で図書館は金曜日が休館というのもあり、なかなか日程が合わない。呼んでいただければ行く。

【委員】できればやりたいと思う活動はたくさんあるが、そこに十分な時間を割くのが難しい状況はある。

【委員長】調整は大変だが、公共図書館による学校訪問を実施している地域は多いと思う。

【委員】現状について質問させていただく。各小中学校に年間予算はどれくらいついているか。蔵書検索は電子化されているか。横断検索または公共図書館との横断検索のシステムはできているか。司書教諭もいらっしゃると思うが、授業数の減免等

の措置があるかどうか。もう一点、管轄の違いはあるが都立や私立の学校へのサポートは市立図書館としてされているか。

【事務局】まず予算だが、学校図書館に関する外部の調査結果になるが、武蔵野市は、小学校1校あたりの図書購入予算の平均額が約90万円、中学校では1校あたり約100万円となる。

【委員】年々増減はあるか。

【事務局】経年資料は手元になくわからない。

【事務局】自校の蔵書検索は電子化されており、パソコンで検索できる。ただし、横断検索システムはなく、例えばA小学校でB小学校の本を調べる、A小学校で中央図書館の本を調べるといったことはできない。次に司書教諭の授業数減免は特にない。私立の学校や都立高校への対応については、市の教育委員会は市立小中学校を対象にしているので、私立の学校については管轄外となる。高校についても、直接的に何か関わっていることはない。

【委員】私立や都立学校について、市立図書館のサービス対象ではないのか。

【事務局】学校連携として、ほとんどの市立小中学校に本を貸出しており、都立高校についても、要望があれば貸し出している。が、今のところそれほど要望はきていない。あまりPRしていないこともあると思う。実績はあまりないが、することはできる状況である。

【委員】1点質問だが、ポプラディアの方は具体的にはどんな説明をされたのか。

【委員】同じ言葉を国語辞典や百科事典で調べて違いを見せる。

【委員】YouTubeに説明の動画が出ている。

【委員】パワーポイントを使って説明する。調べ方や、国語辞典と百科事典の違いなど。

【委員】例えば、特定の言葉を調べさせて、それは正式名称ではないから、正しい言葉に変えないと調べられないなど、そういう経験を次々とさせる。ポプラ社が小中学校に提供しているプログラム。

【委員】教育プログラムのパッケージができていて、シートも用意されている。「百科事典というものは、こんなものなんだ」と子どもたちが体感できる。

【委員】司書教諭についてであるが、学校で直に任命している。時間の軽減はなくてもいいが、4月に、例えば「司書教諭に任命する」といった、辞令のようなものがあるとモチベーションが上がるのではないかと思う。

【委員】中学校は司書教諭の免許を持っている人が非常に少ない。私自身も夏休み1か月かけて勉強して取った経緯がある。

【委員長】司書教諭は全校に配置されているか。

【委員】配置されている。

【事務局】武蔵野市の教員も東京都の職員であり、東京都が先生を配置するなかで、資格者を各校に配置していく。ただ、中学校は教科担任制なので、例えば理科で司書教諭の資格をもっていた先生が異動した場合、そこに同じく理科で司書教諭の資格を持つ人を配置できるかという難しい部分がある。そうした状況から、今は12学級以上の学校の全校に司書教諭を配置できているが、今後は難しい部分も出てくるかもしれない。

【委員】小学校では、すべての教科を教えるのでその限りではない。

【委員】12学級以上でも司書教諭がいなかった時もある。

【委員】配置率98%である。残りの2%になる学校があるということか。

【委員長】時間も迫ってきたので、今日予定された議事はこれで終了としたい。

2 その他

(1) 日程調整

【事務局】

*日程調整

第3回は9月30日(水)17時半より

第4回(仮)11月17日(火)

	<p>【委員長】 以上で第2回子ども読書活動推進計画策定委員会を閉会する。</p>
--	---

(以上)